

出候。將又飛州には家老又は人持組頭之内何れを可被遣候哉。廢城様も如何可有之候哉。御老中に被相尋候様、本多彌兵衛殿迄御大小將芝山彦三郎を以急使に被遣、二月十日に金澤に歸着仕候。

一、正月十九日被仰渡

御 横 目 矢部 權 丞

御 作 事 奉 行 近藤三郎左衛門

御 普 請 奉 行 前 田 清 八

一、二月十日被仰渡候。

惣奉行御大小將組頭 奥村市右衛門

一、四月七日廢城御用被仰渡候。市右衛門・權丞於御前被仰渡、御時服二つ・御羽織一つ、三郎左衛門・清八へ御時服二つ被下之候。

一、廢城御用相勤候與力。

小島才右衛門 矢部 八 丞

植松武右衛門 成田安右衛門

堀 半兵衛 金丸源 丞

柏 金左衛門 小嶋豐右衛門

山本勘右衛門 中村忠左衛門
玉造源右衛門 八木彌三郎
伊藤庄右衛門 野尻七左衛門

一、四月九日金澤發出、十五日高山到着。

一、在番之内山崎源五左衛門・不破覺丞兩人廢城御用相勤之、濟次第可罷歸候。其外は廢城濟切不申内、段々可罷歸候。組中は番頭・使役同道可罷歸之旨被仰渡候。

一、廢城見分御使番前田兵右衛門被遣候。廢城相濟候様子見届和田小右衛門被遣候。

一、六月二十三日何茂相仕廻罷歸候。即日御目見被仰付候。其後御能被仰付、御饗膳御算用者以上被下之候。如前例。

一、七月七日今般廢城御用相勤候者之内、左之通御用番横山左衛門宅に而御目錄被下之候。

御羽織一つ・白銀二十枚充 山崎源五左衛門

御羽織一つ・白銀十枚充 奥村市右衛門

御羽織一つ・白銀十枚充 矢部 權 丞

御羽織一つ・白銀十枚充 不破 覺 丞

白銀十枚充 近藤三郎左衛門
前 田 清 八

白銀三枚充 奥村造酒丞
渡邊甚左衛門

以 上

一四 大小將組軍役之御定

定

一、大小將一組之頭一人、番頭一人、小將横目一人、組之小將二十三人之事。

附、此人數令不足時は其旨可達聽事。

一、六組一・二番之次第以圖取可相定事。

一、一番・二番相組三・四・五・六番各相組之事。

附、一番・三番・五番は右、二番・四番・六番は左たるべき事。

一、小將組番所等追而相定、次第以本番加番助番之差別組切に可相勤之。組頭・番頭可爲同前事。

附、組頭・番頭をはじめ、他之役儀有之輩は各別之事。

一、江戸表之儀、是又供番・詰番之品を定、組切に可相越。但、今年年是以先規何分にも可申定事。

一、小將横目之事、萬端令言上儀は、雖爲同役不可示談。組中之儀においては、同役并組頭可申談事。

一、番頭不有合時は、小將横目可爲其代事。

一、相組之兩頭別而可示談。然共其組之儀、觸口一篇に不存、諸事身にかけ可致指引。番頭并小將横目、是又右同前に可心得事。

附、事之品により、相揃四人之組頭と及僉議、可付多分。其内替存寄有之者は、可得内意事。

一、小將之儀は、外様之面々と爲各別之間、彌以萬事相愼奉公を勵べし。常に嗜相應之武具、止無用之華麗、都而弁武士之正義、不可亂風俗也。自然組中放埒之輩於有之は、其組之頭可爲越度事。

右條々堅守此旨、無油斷令裁許べきもの也。

天和二年十一月二日 綱利御印

大小將組頭中